

平成 29 年 度

# 授業科目の解説 (3年用)

看護学科

島根大学医学部



## 平成29年度授業時間表（看護学科3年）

### 前 期

	1・2 8：30～10：00	3・4 10：15～11：45	5・6 12：45～14：15	7・8 14：30～16：00	9・10 16：15～17：45
月	助産過程論 (松浦他)  (N12)	看護研究方法論 (小林・津本他) (N11), (情報科学演習室), (第4実習室)	看護情報学 (津本他)  (N12)	助産診断技術学 (松浦他)  (N12)	
火	在宅看護学 (竹田他)  (N21)		小児看護学援助論 (秋鹿他)  (N21)		
水	成人看護学援助論 (矢田他)  (N21)		成人看護学援助論 (森山他)  (N21)		
木	母性看護学援助論 (松浦他)  (N21)		学校保健 (土江他)  (N21)	老年看護学援助論 (加藤他)  (N21)	
金	精神看護学援助論 (瀧尻他)  (N21)		助産診断技術学 (松浦他) (N12)		
			健康相談論 (土江他) (N601)		

8月：小児看護学実習（保育所実習）（秋鹿他）

9月：養護基礎実習（土江）

8, 9月：養護基礎実習事前・事後指導（土江）

### 後 期

	1・2 8：30～10：00	3・4 10：15～11：45	5・6 12：45～14：15	7・8 14：30～16：00	9・10 16：15～17：45
月	<div style="text-align: center;"> <p>臨 地 実 習</p> <p>成人看護学実習</p> <p>成人看護学実習</p> <p>老年看護学実習</p> <p>小児看護学実習</p> <p>母性看護学実習</p> <p>精神看護学実習</p> </div>				
火					
水					
木					
金					

9月：看護学総合実習（矢田他）

3月：養護展開実習事前・事後指導（土江）

区 分	授 業 科 目 名	単 位 数	履修年次		必選 修 択 又 の は 別	備 考		
			3 年次					
			前	後				
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	海外研修 A p 5	1			自由	教 授 岩田 淳	
		海外研修 B p 6	1			自由	募集時に決定	
		海外研修 C p 7	1			自由	審査後決定	
	専 門 科 目		成人看護学援助論 pp 9 ~ 11	2	2		必修	講 師 森山 美香 他
			成人看護学援助論 pp12 ~ 14	2	2		必修	教 授 矢田 昭子 他
			老年看護学援助論 pp15 ~ 17	2	2		必修	准教授 加藤 真紀 他
			小児看護学援助論 pp18 ~ 20	2	2		必修	准教授 秋鹿 都子 他
			母性看護学援助論 pp21 ~ 23	2	2		必修	講 師 松浦 志保 他
			精神看護学援助論 pp24 ~ 26	2	2		必修	講 師 瀧尻 明子 他
			在宅看護学 pp27 ~ 29	2	2		必修	講 師 竹田 裕子 他
			学校保健 pp30 ~ 31	2	2		必修	講 師 土江 梨奈 他
			看護情報学 pp32 ~ 33	2	2		必修	教 授 津本 優子 他
			看護研究方法論 pp34 ~ 35	1	1		必修	特任教授 小林裕太, 教授 津本優子 他
			成人看護学実習	3		3	必修	講 師 森山 美香 他
			成人看護学実習	3		3	必修	教 授 矢田 昭子 他
			老年看護学実習	3		3	必修	教 授 原 祥子 他
			小児看護学実習	2		2	必修	准教授 秋鹿 都子 他
			母性看護学実習	2		2	必修	講 師 松浦 志保 他
			精神看護学実習	2		2	必修	講 師 瀧尻 明子 他
			看護学総合実習	1		1	必修	教 授 矢田 昭子 他
	助 産 科 目		助産診断技術学 pp37 ~ 38		2		選択	講 師 松浦 志保 他
			助産診断技術学 pp39 ~ 41		2		選択	講 師 松浦 志保 他
			助産過程論 pp42 ~ 43		1		選択	講 師 松浦 志保 他
養 護 科 目		健康相談論 pp44 ~ 45		2		選択	講 師 土江 梨奈 他	
教 職 に 関 す る 科 目		養護基礎実習事前・事後指導	1	1		選択	講 師 土江 梨奈 他	
		養護基礎実習	2	2		選択	講 師 土江 梨奈 他	

3年次前期末までに履修すべき専門科目に未履修科目がある場合は、3年次後期以降の専門科目を履修できない  
 養護教諭一種免許状取得のための教職に関する科目の単位の修得方法 (p.46掲載)  
 オフィスアワー一覧 (p.47掲載)

# カリキュラム模式図 [医学部看護学科]

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>基礎科目</b> 英語 英語 I A, 英語 II A 初修外国語 (選択必修) (ドイツ語 I, フランス語 I, 中国語 I, 韓国・朝鮮語 I) 健康・スポーツ 健康・スポーツ科学概論 I スポーツ実習 I 情報科学 情報科学概論 情報科学実習 <b>教養成科目 (選択必修)</b> 入門科目 人文社会科学分野 自然科学分野 (細胞生物学は必修) 学際分野 発展科目 人文社会科学分野 自然科学分野 学際分野 社会人力養成科目 (日本国憲法)	英語 英語 I B, 英語 II B 初修外国語 (選択) (ドイツ語 II, フランス語 II, 中国語 II, 韓国・朝鮮語 II) 健康・スポーツ 健康・スポーツ科学概論 II スポーツ実習 II 情報科学 情報科学実習 <b>教養成科目 (選択必修)</b> 入門科目 人文社会科学分野 自然科学分野 (細胞生物学は必修) 学際分野 発展科目 人文社会科学分野 自然科学分野 学際分野 社会人力養成科目 (日本国憲法)	<b>専門教育科目</b> 看護英語 I 病理学の基礎 薬理と薬剤 疾病論 I 疾病論 II 疾病論 III 障害福祉論 <b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 II 保健福祉行政論 疫学・衛生統計 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論	<b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 II 保健福祉行政論 疫学・衛生統計 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論	<b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 I 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論	<b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 II 保健福祉行政論 疫学・衛生統計 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論	<b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 I 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論	<b>専門教育科目 (専門基礎科目)</b> 看護英語 II 保健福祉行政論 疫学・衛生統計 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 老年看護学実習 I (於：附属病院) 小児看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 母性看護学実習 (於：附属病院, 保育所) 精神看護学実習 (於：附属病院他) 在宅看護学 学校保健 看護情報学 看護研究方法論
<b>基礎科目</b> 環境保健学 社会福祉論 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論	環境保健学 社会福祉論 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論 援助関係論実習 ヘルスアセスメント技術実習 基礎看護学実習 I (於：附属病院)	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習
<b>基礎科目</b> 人間心理 I 生命科学の歴史と倫理 形態と機能 I 形態と機能 II 栄養と代謝 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論	人間心理 II 感染と免疫 形態と機能 I 形態と機能 II 栄養と代謝 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論 ヘルスアセスメント技術実習 基礎看護学実習 I (於：附属病院)	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習
<b>基礎科目</b> 人間心理 I 生命科学の歴史と倫理 形態と機能 I 形態と機能 II 栄養と代謝 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論	人間心理 II 感染と免疫 形態と機能 I 形態と機能 II 栄養と代謝 <b>専門教育科目 (専門科目)</b> 看護学原論 ヘルスアセスメント技術実習 基礎看護学実習 I (於：附属病院)	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習	<b>基礎看護学実習 II</b> (於：附属病院) <b>助産診断技術学 I</b> <b>助産診断技術学 II</b> 助産過程論 健康相談論 看護基礎実習事前・事後指導 看護基礎実習

凡例 □ 教養成科目 □ 専門教育科目 (専門基礎科目) ■ 専門教育科目 (専門科目) □ 臨床実習 □ 助産科目 □ 看護・教職科目 (看護教諭一種免許状)



專 門 教 育 科 目

專 門 基 礎 科 目

授業科目名	海外研修 A (Overseas Study Program A)	担当教員	教授 岩田 淳		
開講年次及び学期	主として1～2年生 長期休暇中	必修・選択の別	自由		
開講形態	実習	時間数	(40時間)	単位数	1

#### 授業概要

本研修は、医学部がニュージーランドのWaikato Institute of Technology (WINTEC) の国際交流課、英語学部、健康学部と協力し、本学部の医学科、看護学科1，2年生を対象に実施する海外研修プログラムです。本プログラムでは、2週間の海外研修、事前事後の研修を通じて、(1) 基礎的な英語コミュニケーション能力と専門英語（医学英語、看護英語）の基礎力向上をはかり、(2) 海外の医療教育機関や施設の見学を通じて、医療に関する知識や視野を広げ、(3) ホームステイ等による異文化交流体験を通じて国際性を養うことを目的としている。研修期間中には次のような活動を行います。

- ・英語学習（日常英会話・基礎的な医学英語/看護英語）
- ・施設見学（クリニック、病院、高齢者施設、ホスピス、助産施設等）
- ・講義（ニュージーランドの医療制度等）
- ・他国からの留学生との交流
- ・各種イベント（歓迎・お別れパーティー、ニュージーランドの自然と文化見学等）

\* 本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間以上履修した学生には修了認定証 (Certificate for Advanced English Skills) が授与されます。

#### 対 象

医学科、看護学科の主として1-2年生

#### 成績評価の方法

事前指導、事後指導、研修報告書及び報告会での発表により評価する。

#### 実習日程・履修申込時期その他

実習日程は3月初旬～中旬を予定しています。研修の説明会、参加者募集は7月初旬に行います。また、本研修に参加する学生は、事前指導としてアドバンスト・イングリッシュ・スキルコースの「海外留学セミナー (Seminar on Overseas Study)」(後期) の履修を必須とします。



授業科目名	海外研修 B (Overseas Study Program B)	担当教員	募集時に決定		
開講年次及び学期	主として2～4年生 長期休暇中	必修・選択の別	自由		
開講形態	実習	時間数	(40時間)	単位数	1
<p>授業概要</p> <p>海外の医療施設・研究所等で医療に関する体験学習，施設見学，異文化体験等を通じて，海外における地域医療，家庭医療について学び医療人としての視野を広げることを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の地域医療・家庭医療について学ぶ。</li> <li>・海外の保健制度について学ぶ。</li> <li>・海外の医療教育機関や施設の見学を通じて，医療に関する知識や視野を広げる。</li> <li>・異文化交流体験を通じて，国際性を養う。</li> </ul> <p>* 本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間以上履修した学生には修了認定証 (Certificate for Advanced English Skills) が授与されます。</p>					
<p>対 象</p> <p>医学科 (主として4-6年)，看護学科 (2-4年) を対象とした海外研修。</p>					
<p>成績評価の方法</p> <p>事前指導，事後指導，研修報告書及び報告会での発表により評価する。</p>					
<p>実習日程・履修申込時期その他</p> <p>実習日程，履修申込時期は，後日通知する。</p>					

授業科目名	海外研修 C (Overseas Study Program C)	担当教員	審査後決定		
開講年次及び学期	1～4年生 長期休暇中	必修・選択の別	自由		
開講形態	実習	時間数	40時間	単位数	1

#### 授業概要

医学部が主催する「海外研修 A」,「海外研修 B」とは異なり, 学生が自主的かつ主体的に行う医療に関する語学学習や語学研修や体験を主たる目的とした40時間以上の海外研修

学生が主体的に企画した計画を審査する。

審査項目は次のとおり

- ・ 研修目的, 内容, 期間, 時間数
- ・ 受入機関の体制 (施設・人員等)
- ・ 安全確保と緊急時の連絡体制 (渡航先の安全確認, 安全教育, 海外旅行保険加入, 緊急時連絡網等)
- ・ 事前研修 (安全教育等), 事後研修 (報告書, 報告会) の計画

\* 本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間以上履修した学生には修了認定証 (Certificate for Advanced English Skills) が授与されます。

#### 対 象

医学科看護学科の全学年を対象とした海外研修。

#### 成績評価の方法

事前指導, 事後指導, 研修報告書及び報告会での発表により評価する。

#### 実習日程・履修申込時期その他

海外研修 C 申請書及び添付書類を渡航 1 月前までに学務課教育改革・教務担当に提出する。企画前であっても学務課教育改革・教務担当で相談を受け付ける。



專 門 教 育 科 目

專 門 科 目

授業科目名	成人看護学援助論	担当教員	講師 森山 美香 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>様々な疾患により侵襲的治療や検査を受ける人，生命の危機状態にある成人期の患者とその家族の反応をアセスメントし，侵襲からの保護，侵襲に対する反応を最適化し，回復を促進するための科学的根拠に基づいた看護を行うために必要な基本的知識と援助方法を学ぶ。</p>					
<p>G I O（一般目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期にある成人期の患者とその家族の特徴を理解し，その人が持つ能力を最大限に発揮できるための看護援助の基礎となる理論的知識と技術を修得する。</li> </ul>					
<p>S B O（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期の概念とその特徴を説明できる。</li> <li>急激な健康障害や手術などの侵襲を受けた患者の生体反応について説明できる。</li> <li>急激な健康障害や手術に伴う合併症の予防と回復に向けた看護について説明できる。</li> <li>急激な健康障害や手術により生じる身体機能の喪失や低下に伴う患者の心理を理解し，援助方法について説明できる。</li> <li>身体機能の喪失や低下による生活の変化を理解し，多職種が連携・協働して患者の退院後の生活の再構築を支える援助について説明できる。</li> <li>急性期患者の家族の心理的反応を理解し，援助方法について説明できる。</li> <li>急性期にある患者・家族の倫理的課題について考えることができる。</li> <li>術後患者のフィジカルイグザミネーションができる。</li> <li>手術患者の事例において看護過程が展開できる。</li> <li>救急患者に必要な救命救急処置を習得できる。</li> <li>災害急性期における看護について理解できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験（60%），課題提出（30%），授業・演習への参加状況（10%）で評価する。</li> </ul>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>&lt;教科書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>雄西智恵美，秋元典子 編：周手術期看護論 第3版，ヌーベルヒロカワ，2014.</li> <li>池松裕子，山勢善江 編：急性期看護論，ヌーベルヒロカワ，2005.</li> <li>竹内登美子，周手術期看護3. 第2版. 医歯薬出版. 2013.</li> <li>渡邊トシ子 編：ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント 第3版，ヌーベルヒロカワ，2011. (成人看護学援助論 と共通)</li> </ol> <p>&lt;参考書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>鎌倉やよい，深田順子著：周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護，医学書院，2008.</li> <li>野崎真奈美，林 直子，佐藤まゆみ，鈴木久美 編：成人看護技術，第2版，南光堂，2013.</li> <li>竹内登美子，周手術期看護1・2. 第2版. 医歯薬出版. 2012.</li> <li>土蔵愛子，草柳かほる：こころに寄り添う手術看護 周術期患者・家族の心理とケア，医歯薬出版，2014.</li> <li>宇都宮明美：早期離床ガイドブック 安全・安楽・効率的なケアをめざして，医学書院，2013.</li> <li>中村美智子監修：周術期看護 安全・安楽な看護の実践，インターメディカ，2016.</li> <li>黒田裕子，酒井明子 編：災害看護，看護の実践と統合 ，メディカ出版，2014.</li> <li>本庄恵子，吉田みつ子 監：写真でわかる臨床看護技術1. 2，インターメディカ，2012. (成人看護学援助論 と共通)</li> </ol>					

## 授業計画

回	月日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	4 /12	急性期看護の概念と特徴	急性期患者とその家族の特徴	森山
2	4 /19	侵襲に対する生体反応	手術侵襲に対する生体反応	森山
3	4 /19	周手術期看護概論： 手術期における麻酔	麻酔の種類と身体への影響， 麻酔時の全身管理	今町
4	4 /26	周手術期看護概論： 術中看護	手術室看護師の役割と看護の実際	小川CN
5	4 /26	周手術期看護概論： 術前看護	術前検査，術前訓練，不安の緩和， 意思決定の支援	森山
6	4 /26	周手術期看護概論： 術後看護	術後合併症予防・回復促進のためのケア	森山
7	5 /2 (火)	周手術期患者の看護	胃切除術を受ける患者の看護	森山
8	5 /2 (火)	看護過程の展開	演習：事例紹介	森山
9	5 /10	周手術期患者の看護	大腸切除術を受ける患者の看護	清水CN
10	5 /10	周手術期患者の看護	乳房切除術を受ける患者の看護	藤井CN
11	5 /17 8:30-10:00	周手術期患者の看護	肺切除術を受ける患者の看護	佐藤
12	5 /17 10:15-11:45	周手術期患者の看護	脳血管疾患で手術を受ける患者の看護	佐藤
13	5 /24	看護過程の展開	演習：看護展開	森山他
14	5 /24	看護過程の展開	演習：看護展開	森山他
15	5 /31	看護過程の展開	演習：看護展開	森山他

### 備 考

- ・この科目では看護を学習するために関連する分野（形態と機能，疾病論など）について理解することが必要であるため，復習をしておく。
- ・課題：5 /2 に事例を配布し解説する。各自事例について看護過程を展開し，5 /19(金) 15時までに看護学科棟 1 階のBOXに提出する。

## 授業計画

回	月日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	5/31	看護過程の展開	演習：事例展開	森山他
17	6/7	災害看護	災害看護とは，トリアージ， こころのケア	森山
18	6/7	災害看護		森山
19	6/14	看護過程の展開	演習：事例展開	森山他
20	6/14	救急患者に必要な技術	演習：一次救命処置	森山他
21	6/21	看護過程の展開	演習：看護過程発表会	森山他
22	6/21	看護過程の展開	演習：看護過程発表会	森山他
23	6/28	生命の危機状態にある人への看護 (1)	呼吸器障害患者への看護	森山
24	6/28	急性期リハビリテーション看護 (1)	急性期患者の早期リハビリテーション	江草PT
25	6/28	急性期リハビリテーション看護 (2)	演習：呼吸理学療法・早期離床の援助	江草PT
26	7/5	術後患者のフィジカルアセスメント	演習：術後観察・ストーマケア	森山他
27	7/5	術後患者のフィジカルアセスメント	演習：術後観察・ストーマケア	森山他
28	7/12	生命の危機状態にある人への看護 (2)	循環器障害患者への看護	森山
29	7/12	周手術期患者の看護	開心術を受ける患者の看護	森山
30	7/19	急性期看護における倫理	倫理的事例の検討	森山

### 備 考

- ・ 6/21に発表する看護過程の課題は、6/16(金) 15時までに教員に提出する。
- ・ 6/28の5コマ目は実技演習を行うため、昼休憩中にユニフォームに着替えておく。
- ・ 7/5は実技演習を行うため、ユニフォームに着替えて演習場所に集合する。

授業科目名	成人看護学援助論	担当教員	教授 矢田 昭子 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>慢性的な健康障害をきたしている成人期の人とその家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を行うために必要な基本的知識と援助方法について学習する。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期の概念と看護の特徴を理解できる。</li> <li>2. 慢性期にある成人期の人とその家族の反応をアセスメントし、その人が持つ能力を最大限に発揮できるよう、科学的根拠に基づいた援助を行うための知識・技術・態度について習得できる。</li> <li>3. 慢性期看護における多職種との連携・協働した支援の必要性について理解できる。</li> </ol>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期の概念と看護の特徴について説明できる。</li> <li>2. 慢性期にある人の病態・検査・治療について説明できる。</li> <li>3. 慢性期にある人の身体的・心理的・社会的・スピリチュアリティーに及ぼす影響について説明できる。</li> <li>4. 慢性期にある人とその家族を全人的にとらえ、必要な看護援助について科学的根拠に基づいて説明できる。</li> <li>5. 慢性期にある人とその家族が自宅で質の高い生活を送ることが出来るよう、保健・医療・福祉などの多職種が連携・協働した支援を行う必要性について説明できる。</li> <li>6. 保健・医療・福祉などの多職種が連携・協働した支援チームにおける看護師の役割について説明できる。</li> <li>7. 慢性期にある人とその家族の倫理的課題について考えることができる。</li> <li>8. 化学療法を受けるがん患者の事例において看護過程が展開できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>試験 (60%)、課題提出 (30%)、授業・演習への参加状況 (10%) で評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>&lt;教科書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鈴木志津枝, 藤田佐和編: 慢性期看護論, ヌーベルヒロカワ, 2014.</li> <li>2. 小松浩子: がん看護学, 医学書院, 2017</li> </ol> <p>&lt;参考書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鈴木久美, 野澤明子, 森 一恵: 成人看護学 慢性期看護, 改訂第2版, 南江堂, 2015</li> <li>2. 濱口恵子, 本山清美編: がん化学療法ケアガイド, 中山書店, 2012.</li> <li>3. 日本糖尿病療養指導士認定機構 編: 糖尿病療養指導ガイドブック2013, メディカルレビュー社, 2013.</li> <li>4. 本庄恵子, 吉田みつ子 監: 写真でわかる臨床看護技術1・2, インターメディカ, 2012. (成人看護学援助論 と共通)</li> </ol>					



## 授業計画

回	月日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	4 /12	慢性疾患と看護	慢性疾患と治療の特徴, 慢性疾患患者の看護	矢田
2	4 /12	慢性疾患と看護	慢性疾患と治療の特徴, 慢性疾患患者の看護	矢田
3	4 /19	呼吸器疾患の看護	慢性呼吸器疾患患者の看護 : COPD, 気管支喘息	矢田
4	4 /19	心疾患の看護	慢性心疾患患者の看護	矢田
5	4 /26	脳神経疾患の看護	脳神経疾患患者の看護	佐藤
6	4 /26	腎臓疾患の看護	腎不全患者の看護	矢田
7	5 /2 (火)	自己免疫疾患の看護	ITP・リウマチ・膠原病患者の看護	矢田
8	5 /2 (火)	難病の看護	難病患者とその家族への看護 : ALS	矢田
9	5 /10	患者教育	行動変容 事例検討	矢田
10	5 /10	患者教育	事例検討	矢田
11	5 /17	内分泌疾患の看護	糖尿病患者の看護	認定 看護師
12	5 /17	内分泌疾患の看護	糖尿病患者・透析を受ける患者の看護	認定 看護師
13	5 /24	がんの看護	がん医療・がんの病態と経過, がん看護概論	矢田
14	5 /24	がんの看護	全人的苦痛 事例検討	矢田
15	5 /31	がんの看護	化学療法	井上

備 考

## 授業計画

回	月日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	5/31	がんの看護	がん患者とその家族への看護	井上
17	6/7	がんの看護	放射線療法 看護過程演習事例の説明	井上
18	6/7	がんの看護	緩和ケア	認定 看護師
19	6/14	看護過程の展開	事例展開 (個人ワークを基にグループワーク)	矢田・佐藤・ 井上他
20	6/14	看護過程の展開	事例展開 (個人ワークを基にグループワーク)	矢田・佐藤・ 井上他
21	6/21	看護過程の展開	事例展開 (個人ワークを基にグループワーク)	矢田・佐藤・ 井上他
22	6/21	看護過程の展開	看護過程発表会	矢田・佐藤・ 井上他
23	6/28	看護過程の展開	看護過程発表会	矢田・佐藤・ 井上他
24	6/28	演習	事例を用いた看護介入	矢田・佐藤・ 井上他
25	7/5	演習	事例を用いた看護介入	矢田・佐藤・ 井上他
26	7/5	演習	事例を用いた看護介入	矢田・佐藤・ 井上他
27	7/12	がんの看護	アピアランス看護・補完代替療法	認定 看護師
28	7/12	がんの看護	がん患者と家族のニーズに沿った退院 支援	がん 相談員
29	7/19	がんの看護	化学療法を受けながら就労する患者へ の看護	認定 看護師
30	7/19	慢性期看護における倫理	包括ケアにおける意思決定支援	矢田

### 備 考

・ 附属病院の講師の講義は日時を変更する場合もある。

授業科目名	老年看護学援助論	担当教員	准教授 加藤 真紀 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>加齢変化や高齢者特有の生活機能障害，健康問題に対する理解をもとに，高齢者ケアにおける多面的評価方法，ならびに健康レベルに応じた実践的な看護援助方法について教授する。</p>					
<p>G I O（一般目標）</p> <p>加齢や老年病による生活機能障害や健康問題についての理解を深め，その解決もしくは生活の質の維持・向上および穏やかな死を迎えるための看護援助の基礎となる理論的知識と技術を修得する。</p>					
<p>S B O（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の心身に生じる加齢変化と老年病の特徴について理解し，生活への影響と関係づけて説明できる。</li> <li>2. 高齢者の生活機能の評価方法について説明できる。</li> <li>3. 高齢者の生活機能障害や健康問題に適した看護援助方法について，自立支援の視点から理解する。</li> <li>4. 高齢者看護におけるケアの倫理的課題について関心をもち，主体的に考えることができる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験，授業への参加状況により，総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>【参考書】</p> <p>正木治恵，真田弘美編：老年看護学概論【改訂第2版】「老いを生きる」を支えることとは，南江堂，2016.</p> <p>真田弘美，正木治恵編：老年看護学技術【改訂第2版】最後までその人らしく生きることを支援する，南江堂，2016.</p> <p>鳥羽研二，他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，第4版，医学書院，2014.</p> <p>北川公子，他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，第8版，医学書院，2014.</p> <p>小玉敏江，亀井智子編：【改訂】高齢者看護学，中央法規，2007.</p> <p>* その他，授業時に提示する。</p>					

## 授業計画

回	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	高齢者における入院（施設利用） 生活と看護	高齢者と入院（施設利用）	加藤
2	〃	高齢者と薬物療法	加藤
3	生活者として的高齢者を どうとらえるのか？	高齢者のアセスメント：高齢者総合機能評価	加藤
4	〃	高齢者の生活史理解	加藤
5	高齢者の主要症状と看護	摂食・嚥下障害とケアの実際(1)	加藤
6	〃	摂食・嚥下障害とケアの実際(2)	加藤
7	〃	脱水の予防とケア	加藤
8	〃	排泄に関する諸問題とコンチネンス・ケア	加藤
9	〃	生活不活発病（廃用症候群）の理解とケアの 実際	加藤
10	〃	せん妄の理解とケアの実際	加藤
11	〃	口腔ケアの実際（演習）(1)	加藤, 福岡
12	〃	口腔ケアの実際（演習）(2)	加藤, 福岡
13	高齢者の事故防止と安全への援助	転倒の予防と看護	加藤
14	〃	高齢者の骨折と看護	加藤
15	高齢者の主要疾患と看護	脳血管障害をもつ高齢者とその家族への看護(1)	加藤
備 考			

## 授業計画

回	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	高齢者の主要疾患と看護	脳血管障害をもつ高齢者とその家族への看護(2)	加藤
17	〃	脳血管障害をもつ高齢者とその家族への看護(3) : 事例を通して学ぶ(事例展開)	加藤
18	〃	脳血管障害をもつ高齢者とその家族への看護(4) : 事例を通して学ぶ(事例展開)	加藤
19	〃	認知症のある高齢者とその家族への看護(1)	加藤
20	〃	認知症のある高齢者とその家族への看護(2)	加藤
21	〃	認知症のある高齢者とその家族への看護(3)	嘱託講師
22	高齢者の自立支援とリハビリテーション	高齢者リハビリテーション: 高齢者リハビリテーションの考え方とケアの実際	加藤
23	高齢者の主要疾患と看護	視聴覚障害のある高齢者の看護(1)	加藤
24	〃	視聴覚障害のある高齢者の看護(2)	加藤
25	高齢者看護におけるケアの倫理的課題	高齢者ケアにおける人権の保証と倫理的課題(1) : その人らしく生きることを支える援助を考える(事例検討)	加藤
26	〃	高齢者ケアにおける人権の保証と倫理的課題(2) : その人らしく生きることを支える援助を考える(事例検討)	加藤
27	人生の最終段階にある高齢者とその家族への看護	人生の最終段階にある高齢者とその家族を支える看護	加藤
28	老年看護の専門性	老人看護専門看護師の活動の実際	嘱託講師
29	加齢変化と高齢者特有の生活機能障害の理解	高齢者疑似体験(演習)(1)	加藤, 福岡, 原, 竹田, 藤田
30	〃	高齢者疑似体験(演習)(2)	
備 考			

授業科目名	小児看護学援助論	担当教員	准教授 秋鹿 都子 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>疾患や障がいをもつ子どもとその家族に対して、発達段階を踏まえ、かつ科学的根拠に基づいた看護を行うために必要な基本的知識と援助方法について学習する。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康状態と発達に応じた看護実践ができるための基礎的知識と技術が理解できる。</li> <li>2. 子どもの看護過程展開の基礎的知識・技術が習得できる。</li> <li>3. 子どもの基礎的看護技術が習得できる。</li> </ol>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障がいがある子どもの成長発達や生活におよぼす影響について理解できる。</li> <li>2. 子どもの健康障がいがある親や家族におよぼす影響について理解できる。</li> <li>3. 子どもに特徴的な疾患の治療・処置・検査・診察について理解できる。</li> <li>4. 子どもの特徴的な疾患の診療上・日常生活上において必要な看護援助について科学的根拠に基づいて説明できる。</li> <li>5. 健康障がいをもつ子どもと家族が社会で質の高い生活を送ることが出来るよう、保健・医療・福祉・教育などの多職種が連携・協働した支援を行う必要性と、支援チームにおける看護師の役割について説明できる。</li> <li>6. 健康障がいをもつ子どもとその家族の倫理的課題について考えることができる。</li> <li>7. 模擬事例の看護過程が展開できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>試験 (60%)、授業・演習への参加状況および課題 (40%) で評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>&lt;教科書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 「小児臨床看護各論」, 医学書院, 2015.</li> <li>2. 今野美紀, 二宮啓子 (編)：小児看護技術 (改訂第2版), 南江堂, 2014.</li> <li>3. 渡邊トシ子 編：ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント 第3版, ヌーベルヒロカワ, 2011.</li> </ol> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>中野綾美 (編)：ナースンググラフィカ小児看護学 「小児の発達と看護」, メディカ出版, 2015.</p>					

## 授業計画

回	月日	時間	テーマ	授業内容	担当者
1	4月11日	12:45～ 14:15	小児看護の特徴と意義	小児看護の目的，ケアの方法，プレパレーション	秋鹿
2	4月11日	14:30～ 16:00	小児の疾患	小児血液疾患の診断と治療	小児科 (金井)
3	4月18日	12:45～ 14:15	慢性疾患の子どもと家族の看護	小児がんの子どもと家族の看護	秋鹿
4	4月18日	14:30～ 16:00	慢性疾患の子どもと家族の看護	小児がんの子どもと家族の看護	秋鹿
5	4月25日	12:45～ 14:15	看護過程の展開	演習：看護過程オリエンテーション，事例説明(白血病の子ども看護)，個人ワーク	秋鹿
6	4月25日	14:30～ 16:00	小児の疾患	新生児疾患の診断と治療	小児科 (柴田)
7	5月9日	14:30～ 16:00	小児の疾患	小児神経疾患の診断と治療	小児科 (束本)
8	5月9日	16:15～ 17:45	小児の疾患	小児循環器疾患の診断と治療	小児科 (安田)
9	5月12日 (金)	14:30～ 16:00	小児の疾患	小児アレルギー疾患の診断と治療	小児科 (羽根田)
10	5月16日	12:45～ 14:15	看護過程の展開	演習：事例展開(情報の整理) *個人ワークを基にグループワーク	秋鹿 木村
11	5月16日	14:30～ 16:00	看護過程の展開	演習：事例展開(アセスメント)	秋鹿 木村
12	5月23日	12:45～ 14:15	看護過程の展開	演習：事例展開(関連図作成)	秋鹿 木村
13	5月23日	14:30～ 16:00	看護過程の展開	演習：事例展開(看護計画立案)	秋鹿 木村
14	5月30日	12:45～ 14:15	急性期にある子どもと家族の看護	呼吸器疾患・循環器疾患の子どもと家族の看護	秋鹿
15	5月30日	14:30～ 16:00	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護	免疫・アレルギー性疾患の子どもと家族の看護	秋鹿

### 備考

- ・ 講義時間，曜日が時間割通りでない日があるため，注意する。
- ・ 課題：4月25日に看護過程演習で用いる事例を配布し説明する。事例について各自で看護過程を展開し，5月16日の講義開始前に講義室で提出する(必ずコピーを1部とっておくこと)。
- ・ 6月6日に発表する看護過程は，5月30日の講義終了時に講義室で提出する。  
発表会で使用する資料は6月2日(金)午前の講義終了後に配布するため，講義室で待機する。

## 授業計画

回	月日	時間	テーマ	授業内容	担当者
16	6月6日	12:45～ 14:15	看護過程の展開	演習：看護過程発表会	秋鹿
17	6月6日	14:30～ 16:00	看護過程の展開	演習：看護過程発表会	秋鹿
18	6月13日	12:45～ 14:15	看護過程の展開	演習：看護計画の活用	秋鹿
19	6月13日	14:30～ 16:00	プレパレーション	演習：事例患者へのプレパレーション	秋鹿 木村
20	6月20日	12:45～ 14:15	慢性疾患をもつ子ども と家族の看護	腎・泌尿器疾患の子どもと家族の看護	秋鹿
21	6月20日	14:30～ 16:00	慢性疾患をもつ子ども と家族の看護	内分泌・代謝性疾患の子どもと家族の 看護	秋鹿
22	6月27日	12:45～ 14:15	小児看護技術	演習：食事，排泄，清潔，更衣	秋鹿 木村
23	6月27日	14:30～ 16:00	小児看護技術	演習：環境整備（事故防止），点滴の固 定・管理	秋鹿 木村
24	7月4日	12:45～ 14:15	慢性疾患をもつ子ども と家族の看護	神経疾患の子どもと家族の看護	秋鹿
25	7月4日	14:30～ 16:00	慢性疾患をもつ子ども と家族の看護	在宅で生活する疾患・障がいをもつ子 どもと家族の看護	秋鹿
26	7月11日	12:45～ 14:15	プレパレーション	演習：あそび	秋鹿 木村
27	7月11日	14:30～ 16:00	プレパレーション	演習：あそび	秋鹿 木村
28	7月14日 (金)	12:45～ 14:15	小児看護技術	演習：バイタルサイン測定	秋鹿 木村他
29	7月14日 (金)	14:30～ 16:00	小児看護技術	演習：バイタルサイン測定	秋鹿 木村他
30	7月14日 (金)	16:15～ 17:45	小児看護技術	演習：救命処置（BLS）	秋鹿 木村他

### 備 考

- ・ 6月27日，7月11日の演習は実習着，実習靴，名札を着用し第1実習室に集合する。身なりを整えて参加する。  
事前に課題を提示するので，忘れずに持参すること。
- ・ 7月14日の演習は実習着，実習靴，名札を着用しスキルアップセンターに集合する。身なりを整えて参加する。  
事前に課題を提示するので，忘れずに持参すること。  
課題は演習後に追加・修正し，7月18日(火) 8:15までに1階事務室前Boxに提出する（必ずコピーを1部とっておくこと）。



授業科目名	母性看護学援助論	担当教員	講師 松浦 志保 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>母性看護学概論をもとに、母性看護の対象者となる人々の健康状態を系統的にアセスメントし、科学的な根拠に基づいて援助する方法を学ぶ。</p> <p>特に、妊娠・分娩・産褥期にある母性と胎児および新生児、そしてその家族を対象とし、身体的変化、心理・社会的側面の影響について理解し、母性機能の健全な発達や母子の安全を守る看護のあり方を講義、紙上事例展開、技術演習により学ぶ。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <p>妊娠・分娩・産褥の各期における母子を心理・身体・社会的に理解し、その健康状態をアセスメントできる能力を身につける。</p> <p>また、そのアセスメントに基づき、対象者が持つ能力や可能性を最大限に発揮できるよう、科学的な根拠に基づいて援助する方法を考え、実践するための知識・技術・態度を習得する。</p>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠・分娩・産褥期の生理的变化や経過について理解できる</li> <li>2 妊産褥婦の身体的、心理的、社会的特徴とそれに応じた看護を理解できる</li> <li>3 ハイリスク妊娠・分娩・産褥について理解できる</li> <li>4 妊産褥婦の診察時の看護技術を理解し、実施できる</li> <li>5 早期新生児期の生理的变化や経過、起こりやすい異常について理解できる</li> <li>6 早期新生児期の援助方法について理解できる</li> <li>7 産褥期および早期新生児期の紙上事例において看護過程が展開できる</li> <li>8 女性とその家族のもつ健康問題についてアセスメントすることができる</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>提出課題の成果および、科目試験を総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「母性看護学各論 母性看護学(2)」医学書院</li> <li>2) 「ナースング・グラフィカ(31)、母性看護技術」メディカ出版</li> </ol>					

## 授業計画

回		テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	4.6	妊娠の機序	妊娠の機序	臨床看護学 教員
2	〃	妊娠の経過	妊娠の診断・経過	〃
3	4.13	妊娠経過と妊婦の看護	妊娠による母体への影響	〃
4	〃	妊婦のヘルス アセスメント	妊婦のヘルスアセスメントに必要な知識と技術	〃
5	4.20	ハイリスク妊娠と その看護	妊娠高血圧症候群などハイリスク妊婦の看護	〃
6	〃	正常分娩の経過	分娩の生理と機序	〃
7	4.27	妊婦の看護に必要な 看護技術 1	技術演習	〃
8	〃	妊婦の看護に必要な 看護技術 2	技術演習	〃
9	5.11	産婦の看護 1	分娩の経過および産婦のアセスメントと看護 1	〃
10	〃	産婦の看護 2	分娩の経過および産婦のアセスメントと看護 2	〃
11	5.18	異常分娩	産道，娩出力，胎児の異常	〃
12	〃	異常分娩時の産婦の 看護 1	異常時の産婦のアセスメントと看護 1	〃
13	5.25	異常分娩時の産婦の 看護 2	異常時の産婦のアセスメントと看護 2	〃
14	〃	産褥経過	産褥期の経過と機序	〃
15	6.1	褥婦の看護	褥婦の看護	〃

備 考

## 授業計画

回		テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	6.1	異常産褥の経過と看護	産褥熱，乳房の異常などがみられる褥婦の看護	臨床看護学 教員
17	6.8	褥婦に必要な看護技術1	技術演習	〃
18	〃	褥婦に必要な看護技術2	技術演習	〃
19	6.15	新生児の生理と看護1	出生直後の新生児の生理と看護	〃
20	〃	新生児の生理と看護2	新生児の適応現象および生理的現象	〃
21	6.22	異常新生児と看護	新生児に起こる異常症状と看護	〃
22	〃	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の病態と看護	〃
23	6.29	新生児に必要な 看護技術1	技術演習	〃
24	〃	新生児に必要な 看護技術2	技術演習	〃
25	7.6	母性看護の事例展開1 (妊婦)	事例による看護過程	〃
26	〃	母性看護の事例展開2 (妊婦)	事例による看護過程	〃
27	7.13	母性看護の事例展開3 (妊婦)	事例による看護過程	〃
28	〃	母性看護の事例展開4 (褥婦)	事例による看護過程	〃
29	7.20	母性看護の事例展開5 (褥婦)	事例による看護過程	〃
30	〃	母性看護の事例展開6 (褥婦)	事例による看護過程	〃
備 考				

授業科目名	精神看護学援助論	担当教員	講師 瀧尻 明子 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>精神看護学概論で学習した知識をもとに、精神障がいをもつ人々に焦点をあてて看護実践に必要な基本的知識と援助方法について学ぶ。</p> <p>まず、精神医学・精神看護学の視点から主な治療と看護をおさえたうえで、精神障がいをもつ人を対象とした症状アセスメント、セルフケアレベルの査定、治療的アプローチ、日常生活援助技術、コミュニケーション技法などについて学ぶ。患者 - 看護師関係の成立・発展のために必要な自己理解および他者理解を深めるために、プロセスレコードやロールプレイを活用した演習を行う。さらに精神障がいをもつ人の回復過程に応じた個別の援助を導き出すために、事例を用いて看護過程を展開する。そして精神障がいをもつ人を取り巻く環境や生活の場にも目をむけ、自立と社会参加、権利擁護に向けた地域生活支援の方法について学ぶ。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <p>精神障がいをもつ人々のかかえる疾患の特徴および治療・看護の基本を理解し、それらの人々の健康回復や健康の維持・増進、疾病の予防に着目した援助を実践していくための基礎的知識や技術を身につける。そして、精神保健・看護・福祉の現状と合わせて、さまざまな精神障がいからの回復過程にある人の健康的側面にも着目しながら、その人らしい社会生活を営んで行くために必要な支援のあり方についても考える事ができる。</p>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な精神疾患 (精神障がい) の特徴や症状、経過の特徴について述べる事ができる。</li> <li>2. 精神障がいをもつ人への主な治療と看護について述べる事ができる。</li> <li>3. 精神障がいをもつ人によくみられる症状へのアプローチの原則について述べる事ができる。</li> <li>4. 精神障がいをもつ人の日常生活における援助方法について理解できる。</li> <li>5. 治療的コミュニケーション技法について理解できる。</li> <li>6. 精神障がいをもつ人の回復過程に合わせた援助を考える事ができる。</li> <li>7. 精神障がいの程度やレベルに応じた社会参加の方法を考え社会資源の活用・援助について述べる事ができる。</li> <li>8. 精神保健福祉法に基づき人権に配慮した療養生活・治療環境について理解できる。</li> </ol>					
<p>成績の評価方法</p> <p>筆記試験，レポート，演習の参加度により総合的に判断する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書</p> <p>武井麻子：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1]，医学書院  系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2]，医学書院</p> <p>参考書：授業の中で適宜紹介します。</p>					

## 授業計画

回	月/日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	4 / 7	精神看護の特徴とその意義	精神看護の対象, 目的, ケアの原則, ケアの方法	瀧尻
2	4 / 7	精神障害者の抱える症状の理解	精神障害者に特有な症状と症状アセスメント	瀧尻
3	4 / 14	主な精神疾患と看護(1)	統合失調症について	江副
4	4 / 14	主な精神疾患と看護(2)	気分障害について	江副
5	4 / 21	主な精神疾患と看護(3)	統合失調症の回復過程に応じた看護の特徴 気分障害のうつ病相, 躁病相の看護の特徴	瀧尻
6	4 / 21	精神科治療と看護(1)	薬物療法と看護, 電気けいれん療法と看護	瀧尻
7	4 / 28	主な精神疾患と看護(4)	アディクション(依存症)の看護	瀧尻
8	4 / 28	主な精神疾患と看護(5)	パーソナリティ障害, 神経症について	江副
9	5 / 12	精神保健医療における人権擁護, 倫理的課題(1)	権利擁護と治療的環境づくり(通信, 面会, 隔離, 拘束, 代理行為と私物の取扱い)	瀧尻
10	5 / 12	精神保健医療における人権擁護, 倫理的課題(2)	倫理的事例の検討, 個人ワーク・グループワーク	瀧尻
11	5 / 19	精神保健医療における人権擁護, 倫理的課題(3)	倫理的事例の検討, 発表	瀧尻
12	5 / 19	主な精神疾患と看護(6)	精神科における身体のケア	瀧尻
13	5 / 26	精神科治療と看護(2)	精神療法と看護, 社会療法と看護, レクリエーション療法と看護	瀧尻
14	5 / 26	治療的アプローチ(1)	認知行動療法, SSTの理論と実際	瀧尻
15	6 / 2	臨床看護の実際と社会復帰	精神科病院における看護実践, 社会復帰にむけた取組み	栗原CNS 吉田氏

### 備 考

嘱託講師, 院内講師による講義は, 講義日程や時間の変更があります。

## 授業計画

回	月/日	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	6/2	治療的アプローチ(2)	レクリエーションの実際	瀧尻
17	6/9	精神保健医療における人権擁護, 倫理的課題(4)	精神保健福祉法の法制度の運用とリスクマネジメント	玉田
18	6/9	精神科リハビリテーション	病院から地域へつなぐ社会資源の活用(訪問看護・精神科デイケア)	玉田
19	6/16	治療的アプローチ(3)	グループ療法, WRAP	瀧尻
20	6/16	地域精神保健	地域精神保健の実際, 精神科ソーシャルワーカーの役割	院内講師(福田)
21	6/23	セルフケアレベルの査定と分析	オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルの活用	瀧尻
22	6/23	対象の理解と看護の展開(1)	事例を通して症状マネジメントする(1) 個人ワーク・グループワーク	瀧尻
23	6/30	対象の理解と看護の展開(2)	事例を通して症状マネジメントする(2) グループワークの発表	瀧尻
24	6/30	対象の理解と看護の展開(3)	事例を通してセルフケアレベルの査定をする(1) 個人ワーク・グループワーク	瀧尻
25	7/7	対象の理解と看護の展開(4)	事例を通してセルフケアレベルの査定をする(2) グループワークの発表	瀧尻
26	7/7	対象の理解と看護の展開(5)	アセスメントとケアプランを考える(1) 個人ワーク・グループワーク	瀧尻
27	7/14	対象の理解と看護の展開(6)	アセスメントとケアプランを考える(2) グループワークの発表	瀧尻
28	7/14	治療的アプローチ(4)	自律訓練法, リラクゼーション	瀧尻
29	7/21	対象の理解と看護の展開(7)	ケアの実際(1) - プロセスレコードの活用 ロールプレイ・個人ワーク	瀧尻
30	7/21	対象の理解と看護の展開(8)	ケアの実際(2) - プロセスレコードの活用	瀧尻
備 考				

授業科目名	在宅看護学	担当教員	講師 竹田 裕子 他		
開講年次及び学期	3年前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>在宅ケアの基本概念を理解し、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の意義と役割を明確にするとともに、在宅看護を提供する方法について教授する。</p>					
<p>G I O（一般目標）</p> <p>疾病や加齢に伴って健康障害をもつ在宅療養者とその家族について理解したうえで、在宅療養者とその家族のセルフケア能力に応じた援助と、自己決定を尊重しながらQOLの維持・向上を目指す支援の方法について考える。また、在宅看護の特性とケアチームにおける看護職の役割や訪問看護の実際を理解し、在宅看護の基礎となる知識と技術を修得する。</p>					
<p>S B O（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の変化のなかで在宅ケアが発展してきた背景と現状について説明できる。</li> <li>2. 在宅療養を支える社会資源の活用方法について説明できる。</li> <li>3. 介護保険制度とケアマネジメントについて説明できる。</li> <li>4. 地域包括ケアシステムについて説明できる。</li> <li>5. 訪問看護の機能と役割について説明できる。</li> <li>6. 在宅看護過程について理解し、事例をもとに訪問看護計画を立案することができる。</li> <li>7. 療養者と家族の生活に沿った援助方法を工夫するための視点を理解することができる。</li> <li>8. 在宅ケアを展望し、今後の課題について主体的に考えることができる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験、授業への参加状況等により総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>【教科書】</p> <p>河原加代子，他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版，医学書院，2017.</p> <p>【参考書】</p> <p>臺 有桂，石田千絵，山下留理子 編：ナースング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア 第5版，メディカ出版，2015.</p> <p>河野あゆみ 編：新体系 看護学全書 在宅看護論 第4版，メヂカルフレンド社，2016.</p> <p>* その他，授業中の中で紹介する。</p>					

## 授業計画

回	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	在宅看護の概念	在宅看護とは，在宅看護と訪問看護	竹田
2	在宅看護の歴史と現状	在宅看護をとりまく社会背景と変遷	竹田
3	在宅看護の対象者	地域で生活する療養者の特徴	竹田
4		療養者とともに生活する家族の特徴	竹田
5	地域包括ケアシステムと社会資源	地域包括ケアシステムと在宅看護の特性	竹田
6		在宅看護の関係機関と関係職種	竹田
7	地域包括ケアシステムと社会資源	介護保険制度とケアマネジメント	竹田
8		訪問看護の機能と役割	竹田
9	在宅療養者の生活を支える援助技術	在宅看護におけるコミュニケーション技術	竹田
10		食事の援助 経管栄養法・在宅中心静脈栄養法と看護	竹田
11	在宅療養者の生活を支える援助技術	排泄の援助 膀胱留置カテーテルと看護	竹田
12		呼吸の援助 在宅酸素療法と看護	竹田
13	在宅療養者の生活を支える援助技術	在宅酸素療法を行っている療養者への援助 (帝人) 演習	竹田
14		在宅人工呼吸療法を行っている療養者への援助 (帝人) 演習	竹田
15	在宅看護過程の展開	在宅看護における看護過程	竹田

### 備 考

授業内容は変更の可能性があります，適時，授業中に説明します。



## 授業計画

回	テ ー マ	授 業 内 容	担当者
16	在宅看護過程の展開	在宅看護における看護過程	竹田
17	在宅ケアにおける連携と チームアプローチ	保健医療福祉の連携の実際	附属病院 MSW
18		地域医療連携センターにおける退院支援	附属病院 看護師
19	在宅看護の実際 - 事例を通して学ぶ	脳卒中後遺症のある療養者と家族に対する支援	竹田
20			竹田
21	在宅看護の実際 - 事例を通して学ぶ	難病療養者と家族への支援	竹田
22			竹田
23	在宅看護の実際 - 事例を通して学ぶ	認知症のある療養者と家族への支援	竹田
24			竹田
25	在宅における終末期ケア	終末期にある療養者と家族への支援	竹田
26			竹田
27	在宅における安全性の確保	在宅看護におけるリスクと療養生活上の 安全の確保	竹田
28			竹田
29	在宅療養者の人権の尊重と権利	在宅看護に求められる倫理	竹田
30	在宅ケアの展望	在宅ケアの展望と今後の課題	竹田
備 考			

授業科目名	学 校 保 健	担当教員	講師 土江 梨奈 他		
開講年次及び学期	3 年前期	必修・選択の別	必修		
開 講 形 態	講義	時間数	30	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>学校保健の目的は子ども達の健康・安全を守り、心身の発達を促すこと、将来にわたって健康・安全で活力のある生活ができるようにすることにある。近年、学校保健の課題は感染症、生活習慣、いじめ、虐待、不登校、薬物乱用、性の逸脱行動等、複雑多岐にわたっている。その中で、保健・医療・福祉の関係機関・職種や学校、家庭、地域社会が連携・協力しながら組織的、計画的に学校保健活動を推進していくことが求められている。学校保健は、養護教諭を志望する学生だけでなく、保健師、助産師、看護師を志望する学生にとっても、学んでほしい内容である。</p> <p>本授業では、学校保健の意義、目的、制度・法的根拠、ヘルスプロモーションに基づく学校保健活動の実際、養護教諭の役割・機能について概説する。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童・生徒、教職員の健康課題と、心身の健康を保持増進するための学校保健の意義、役割を理解する。</li> <li>2. 保健管理、保健教育、保健組織活動の実際について理解する。</li> <li>3. 学校教育で求められる養護教諭の役割・機能について理解する。</li> </ol>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校保健の意義・目的について説明できる。</li> <li>2. 児童・生徒の抱える心身の健康課題について説明できる。</li> <li>3. 学校保健経営の内容について説明できる。</li> <li>4. 学校保健活動と教職員の役割について説明できる。</li> <li>5. ヘルスプロモーションの理念と学校保健について理解できる。</li> <li>6. 学校保健活動の意義と内容について説明できる。</li> <li>7. 学校環境衛生について理解できる。</li> <li>8. 養護教諭の役割・機能について説明できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>出席状況と参加度、グループ発表、課題レポート、筆記試験により総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書： 「学校保健安全法に対応した学校保健」、徳山美智子、中桐佐智子、岡田加奈子編著、東山書房</p> <p>参考書： 「新訂版 学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会、第一法規 「学校保健ハンドブック」、教員養成系大学保健協議会編、ぎょうせい 「学校保健マニュアル」、衛藤 隆、岡田加奈子編、南山堂 「国民衛生の動向」最新版、厚生統計協会 「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」、医学書院 「公衆衛生看護学テキスト4 公衆衛生看護活動 学校保健・産業保健」、医歯薬出版 「学校保健の動向平成27年度版」、日本学校保健会 その他随時、授業の中で紹介する。</p>					

## 授業計画

回	日程	曜日	テーマ	授業内容	担当者
1	4月6日	木	学校保健とは	学校保健とは、ヘルスプロモーションの概念	土江
2	4月13日	木	学校保健経営	学校保健経営，学校保健計画，学校保健組織活動	土江
3	4月20日	木	子どもの発育発達と学校保健	子どもの発育発達と学校保健 子どもの健康課題（演習提示）	土江
4	4月27日	木	学校保健活動(1)	健康観察，健康相談	土江
5	5月11日	木	学校保健活動(2)	健康診断，健康評価と健康情報の活用	土江
6	5月18日	木	学校保健活動(3)	感染症の予防と対策 健康上の課題を有する子どもへの支援	土江
7	6月1日	木	学校保健活動(4)	学校の環境衛生	小林裕太 特任教授
8	6月15日	木	学校保健活動(5)	子どもの健康課題（発表） 発表用資料6 / 14までに提出	土江
9	6月22日	木	学校保健活動(6)	学校歯科保健	歯科口腔外科学講座 吉野 綾先生
10	6月29日	木	学校保健活動(7)	特別支援教育と学校保健 学校における医療的ケア	土江
11	7月6日	木	学校保健活動(8)	性に関する教育，喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育	土江
12	7月13日	木	学校保健活動(9)	学校安全及び学校の危機管理，学校安全教育，食育と学校給食	土江
13	7月20日	木	学校保健活動(10)	保健室の機能と養護教諭の職務，学校保健活動のまとめ	土江
14	7月25日 12:45～ 16:00	火	養護教諭と学校保健活動	養護教諭による学校保健活動の実際と課題	嘱託講師 正木千恵先生
15					

### 備考

自分の小学生・中学生・高校生時代の経験を振り返り，学校保健のあり方について考えてほしい。  
現在の子どもをとりまく健康・安全に関する情報に普段から関心を持っておくこと。  
スケジュールは変更する場合がある。

授業科目名	看護情報学	担当教員	教授 津本 優子, 嘱託講師 石垣 恭子 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	講義	時間数	30	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>臨床や地域看護の現場では、看護情報収集・診断・計画立案・実施・評価という一連の思考や業務の過程を通して、看護が実践されている。これらの看護過程に従って看護を展開する場合、全段階において、看護情報がどのように生成・変換・処理・利用されているのかに注目することが必須である。また、看護情報の検索・蓄積・伝達については、看護記録等について基本的事柄を学び、看護と情報との係わりをより具体的に習得することが必要である。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <p>本講義では、情報科学の医療・看護への応用や医療情報システムを理解し、その中での看護の位置づけを知ること为目标とする。また、看護情報学の理論を理解し、必要な看護情報を収集する方法、ならびに看護研究への応用について学ぶ。</p>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報科学の基礎 情報の概念、意味、データとの関連が説明できる。 情報の一連の処理過程や標準化、共通化、機密保持等について説明できる。</li> <li>2) 看護過程の概要と実際 看護過程における論理的思考の必要性について理解する。 看護記録の種類と内容について理解する。</li> <li>3) 看護情報の処理と標準化 看護診断、看護度等、看護情報の標準化について、一般的な方法論を述べる。 臨床における看護情報の収集、処理について、問題志向型システムを中心に類別できる。 インターネットを看護情報等の収集に活用できる。</li> <li>4) 看護と情報に関する倫理 個人情報保護法に基づく患者情報の管理の必要性について述べる。 患者情報の管理の具体的方策を説明できる。</li> <li>5) 医療・病院情報システム 病院情報システムについて、現在の状況や今後の発展性について説明できる。 病院情報システムの中での看護情報システムの在り方、展開について述べる。 地域保健医療情報システムの具体例をあげ、地域看護との関連性や位置づけを説明できる。</li> <li>6) 病院情報システムの実際 本学の病院・看護情報システムについて具体的に説明できる。 本学の診療録システム、看護記録等を具体的に学び、看護情報の流れを述べる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>平常点 (講義毎に提出するレポート) および筆記試験を総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書：系統看護学講座 別巻 看護情報学 第1版, 医学書院, 2012</p>					

## 授業計画

回	日程	テ ー マ	授 業 内 容	担当
1	4月10日 (月)	情報科学の基礎	情報科学の基礎 情報と認知・コミュニケーションと情報	津本
2	4月17日 (月)	コンピュータと 情報処理	コンピュータと情報処理 コンピュータネットワーク	津本
3	4月24日 (月)	看護と情報	論理的思考, Critical Thinking	津本
4	5月1日 (月)	看護と情報	看護師の意思決定と情報, EBN	津本
5	5月8日 (月)	看護過程と情報	看護過程と情報処理	津本
6	5月15日 (月)	看護とコンピュータ	看護情報学とは 実践・教育・研究の場でのコンピュータ活用	津本
7	5月29日 (月)	看護業務の システム化	看護記録の様式, 法律的位置づけ	津本
8	6月5日 (月)	看護と地域情報	看護と地域保健・医療・福祉情報システム	石垣
9	6月12日 (月)	病院情報システム	病院情報システム	津本
10	6月14日(水) 16:15 ~ 17:45	保健師と情報処理	保健師と情報処理 在宅看護とシステム介護保険と情報システム	石垣
11	6月19日 (月)	看護業務の システム化	看護用語の標準化とシステム構築	津本
12	6月26日 (月)	情報に関する倫理	カルテ開示, 個人情報保護	津本
13	7月3日 (月)	看護支援システム	看護支援システム, クリニカルパス	岩田*
14	7月10日 (月)	看護支援システム	看護支援システム, クリニカルパス	岩田*
15	7月24日 (月)	情報倫理	情報倫理 看護情報学の今後	津本

### 備 考

\* 附属病院

注) 嘱託講師の日程は, 都合により変更する可能性がある。

授業科目名	看護研究方法論	担当教員	特任教授 小林 裕太, 教授 津本 優子 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	30	単位数	1
<p>授業概要</p> <p>看護の質を高めるための看護学研究の意義, 看護研究のさまざまな方法について学ぶ。研究を進める上では, 従来の研究成果を整理し, 体系化する必要がある。そのために必要な文献の検索, 批判的な読み取りの力を養う文献クリティークをおこなう。質問紙を用いた研究を取り上げ, 研究テーマの設定と研究計画の立案, 調査データの分析方法等, 看護研究の実際について演習を進め, 結果をまとめる力を養う。以上より, 看護専門職として生涯にわたって看護学を探究していく研究的態度を培う。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <p>看護の質を高めるための看護学研究の意義を理解し, 看護学研究の方法について学ぶ。文献の検索, クリティーク演習, 看護学研究演習の経験をとおして, 看護専門職として生涯にわたって看護学を探究していく研究的態度を培う。</p>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護学の研究が, 看護の質の向上, 看護学の発展に必要不可欠であることを理解する。</li> <li>2 看護の現象を明らかにするために用いられるさまざまな看護に関する研究デザイン, 方法およびその適用について説明できる。</li> <li>3 研究テーマに対して適切な研究計画, 研究方法を選定することの重要性を説明できる。</li> <li>4 研究プロセスの構造とポイントを概説できる。</li> <li>5 研究の基盤となる文献検索の意義と方法を概説できる。</li> <li>6 文献をクリティークすることができる。</li> <li>7 文献検討をふまえ, 研究テーマを設定し, 研究計画を立案することができる。</li> <li>8 研究データを解析し, 結果をまとめることができる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>ミニテスト, グループ学習への参加態度, 研究計画や結果及び考察レポートなどの提出物で総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書: 「黒田裕子の看護研究 step by step」第4版 黒田裕子, 学研  参考書: 「ナースのための質問紙調査とデータ分析」石井京子他, 医学書院  参考書: 「看護研究ガイドマップ」川口孝泰 医学書院  参考書: 「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版看護研究のエキスパートをめざして(第2版)」グレッグ 美鈴他 医歯薬出版</p>					

## 授業計画

回	月日	時間	教室	テーマ	授 業 内 容	方法	担当者
1	4月10日 (月)	10:15～ 11:45	N11	看護研究の意義	ガイダンス，看護研究の意義について学ぶ。	講義	小林
2	4月17日 (月)	"	N11	研究方法・文献検索と文献検討	研究のプロセス，文献検索と文献クリティークの基本について学ぶ。	講義	小林
3	4月24日 (月)	"	N11	データの取り扱いと研究倫理	量的・質的データの取り扱い及び研究倫理について学ぶ。	講義	津本
4	5月1日 (月)	"	情報科学 演習室	文献検索の方法	文献検索の方法について学ぶ。 文献を収集する。	演習	教員 + (図書館)
5	5月8日 (月)	"	第4実習室	文献クリティーク (1)	10～15人のグループで，文献の読み取りをおこない，研究方法を知る。	演習	教員 (下記)
6	5月15日 (月)	"	第4実習室	文献クリティーク (2)	10～15人のグループで，文献の読み取りをおこない，研究方法を知る。	演習	教員 (下記)
7	5月22日 (月)	"	第4実習室	文献クリティーク (3)	10～15人のグループで，文献の読み取りをおこない，研究方法を知る。	演習	教員 (下記)
8	5月29日 (月)	"	第4実習室	文献クリティーク (4)	10～15人のグループで，文献の読み取りをおこない，研究方法を知る。 クリティークのまとめをおこなう	演習	教員 (下記)
9	6月5日 (月)	"	N11	質的研究の進め方	質的研究の進め方について学ぶ	講義	津本
10	6月12日 (月)	"	N11	研究計画の立て方	研究計画の立て方について学ぶ	講義	小林
11	6月19日 (月)	"	情報科学 演習室	研究計画の立案， 質問紙の作成	研究テーマの決定，研究計画の立案をおこなう。	演習	教員 (下記)
12	6月26日 (月)	"	情報科学 演習室	データの取り扱い方	データ入力と集計方法，SPSSの使い方について学ぶ。	講義	津本
13	7月3日 (月)	"	情報科学 演習室	質問紙調査の分析	データの入力，集計，解析を行う	演習	教員 (下記)
14	7月10日 (月)	"	情報科学 演習室	結果の読み取り と考察	結果の読み取りと考察	演習	教員 (下記)
15	7月24日 (月)	"	情報科学 演習室	調査のまとめ	さらに考察を進め，各自のまとめをおこなう	演習	教員 (下記)

### 備 考

クリティークおよび演習担当：小林，津本，福間，宮本，井上，木村，佐藤，坂根，島林  
 文献クリティークはきちんと事前に読み込んで出席すること。  
 最終の筆記試験はおこなわない。ミニテスト，グループ学習への参加態度，研究計画や結果及び考察レポートなどの提出物で総合的に評価する。提出物は，期限までに提出すること。  
 欠席は1回，2%減点する。





# 專 門 教 育 科 目

( 助 產 科 目 )

( 養 護 科 目 )

授業科目名	助産診断技術学	担当教員	講師 松浦 志保 他										
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	選択										
開講形態	講義	時間数	30	単位数	2								
<p>授業概要</p> <p>妊娠・産褥各期の経過ならびに母子とその家族に与える影響について理解を深める。また、妊娠・産褥各期において助産診断を行うための基礎的知識について学ぶ。さらに、妊婦健康診査・乳房ケアなどの助産実践において、母親の主体性を尊重したケアや保健教育を実施するための知識・技術の基礎を学ぶ。</p>													
<p>G I O (一般目標)</p> <p>妊娠・産褥各期の母子の身体的変化や、家族を含めた心理・社会的特徴について理解を深め、母親が主体的な妊娠・分娩・産褥・育児期を送るための支援やケア技術に必要な基礎的知識を習得する。</p>													
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・産褥各期にある母子の身体的変化について説明できる。</li> <li>2. 妊娠・産褥各期にある母子とその家族の心理・社会的特徴について説明できる。</li> <li>3. 妊娠・産褥各期にある母子の状態を科学的根拠に基づき助産診断できる。</li> <li>4. 診断に基づいたケアを提供するための助産技術・保健教育について理解できる。</li> <li>5. 母親の主体性を尊重し、継続的なケアを提供する助産師としての基本的な姿勢について理解できる。</li> </ol>													
<p>成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>試験 (出席4/5以上とする)</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>グループワーク参加態度</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>保健教育の実施と評価</td> <td>5%</td> </tr> </table>						試験 (出席4/5以上とする)	80%	課題レポート	10%	グループワーク参加態度	5%	保健教育の実施と評価	5%
試験 (出席4/5以上とする)	80%												
課題レポート	10%												
グループワーク参加態度	5%												
保健教育の実施と評価	5%												
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 我部山キヨ子編：助産学講座 助産診断・技術学 (1) 妊娠期, 医学書院</li> <li>2) 我部山キヨ子編：助産学講座 助産診断・技術学 (2) 分娩期・産褥期, 医学書院</li> <li>3) 横尾京子編：助産学講座 助産診断・技術学 (3) 新生児期・乳幼児期, 医学書院</li> </ol> <p>参考書</p> <p>別途資料として配布, 説明する。</p>													

## 授業計画

回	テーマ	授業内容	担当者	日程	場所
1	妊娠の生理と 妊婦への支援	妊娠という現象とその成立条件 妊娠による母体の生理的变化	松浦	4/7(金) 12:45 ~	第1実
2	妊娠期の産科学的 診断(1)	妊娠の診断, 妊娠週数の診断, 化学的妊娠診断	産科医師 折出先生		N12
3	妊娠期の産科学的 診断(2)	超音波検査の原理と産科における活用の実際 超音波診断装置の基本的操作の説明と理解	産科医師 中村先生		N12
4	妊娠の生理と 妊婦への支援	胎児の発生・成長・発育 胎児の各器官・臓器の発達とその機能 胎盤・臍帯・卵膜・羊水の構造と機能 妊婦の健康診査・検査	松浦		第1実
5			松浦		第1実
6	妊娠期の産科学的 診断(3)	胎児心拍数モニタリングにおけるCTG判読法の理解 NSTによる胎児の健康状態の診断の理解 non-reassuring fetal statusに対する処置と対応	産科医師 石橋先生		N12
7	胎児異常と 出生前診断	子宮内胎児発育遅延, 多胎妊娠, 羊水異常 羊水検査と出生前診断	産科医師 折出先生		N12
8	妊娠の生理と 妊婦への支援	妊婦の日常生活, 心理・社会的側面からの適応 妊婦の意思決定や思考を考慮した支援 家族を含めた出産準備, 親役割準備への支援	松浦		第1実
9			松浦		第1実
10	妊娠期の助産技術 (保健教育)	周産期にある集団を対象にした保健教育のプロセス	松浦		第1実
11		指導案作成	松浦		第1実
12		模擬両親学級・母親学級の実施 (学内: グループワーク)	松浦 島林		第1実
13		両親学級・母親学級の実際 (出雲市の企画に参加)	松浦 島林		学外
14	産褥の生理と 妊婦への支援	健康診査 退行性変化と進行性変化 退行性・進行性変化に伴うリスク因子と予防的支援 産後1ヵ月健康診査までの健康状態の予測	松浦		第1実
15	産褥期の助産技術	褥婦の育児に必要な基本的知識と技術 褥婦の健康支援と家族計画 1ヵ月健康診査までの母子と家族の支援	松浦		第1実
16	試験				第1実
<p><b>備考</b></p> <p>講義日程は4月7日(金)の初回の授業時にお知らせします。 助産師国家試験受験資格の必須科目である。 資料は講義毎に配布するので、それに基づいてしっかり復習する。 講義によっては、レポート課題を出します。</p>					

授業科目名	助産診断技術学	担当教員	講師 松浦 志保 他										
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	選択										
開講形態	演習	時間数	60	単位数	2								
<b>授業概要</b> 分娩進行状態や産婦のニーズ、胎児および新生児の健康状態に応じた助産診断、助産実践を行うための基礎的知識・技術について学ぶ。さらに、演習を通して、分娩介助法・出生直後の新生児ケアや蘇生法など、分娩期・新生児期に欠かせない助産技術について習得する。													
<b>G I O（一般目標）</b> 分娩経過による母子の身体的変化や、家族を含めた心理・社会的特徴について理解を深め、母親が健康的で主体的な分娩を行うための助産診断・助産実践に必要な知識・技術を習得する。													
<b>S B O（行動目標）</b> 1. 分娩期にある母子の身体的変化について説明できる。 2. 分娩期にある母子とその家族の心理的・社会的特徴について説明できる。 3. 分娩期にある母子の状態を科学的根拠に基づき助産診断できる。 4. 診断に基づいたケアを提供するための助産技術・保健指導方法について習得できる。 5. 正常分娩を自立して取り扱うための分娩介助技術の基本について習得できる。 6. 正常から逸脱した緊急時の対応に必要な知識・技術について習得できる。 7. 対象の主体性を尊重し、継続的な援助を行う助産師としての基本的姿勢について理解できる。													
<b>成績評価の方法</b> <table> <tr> <td>演習への取り組み</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>技術評価</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>筆記試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>						演習への取り組み	10%	技術評価	40%	レポート	10%	筆記試験	40%
演習への取り組み	10%												
技術評価	40%												
レポート	10%												
筆記試験	40%												
<b>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</b> <b>教科書</b> 1) 我部山キヨ子編：助産学講座 助産診断・技術学 (1) 妊娠期, 医学書院 2) 我部山キヨ子編：助産学講座 助産診断・技術学 (2) 分娩期・産褥期, 医学書院 3) 横尾京子編：助産学講座 助産診断・技術学 (3) 新生児期・乳幼児期, 医学書院  <b>参考書</b> 別途資料として配布, 説明する。													

## 授業計画

回	テーマ	授業内容	担当者	日程	場所
1	分娩期の生理と 妊婦へ支援	分娩の定義と種類	松浦		第1実
2		分娩の3要素	松浦		第1実
3		分娩が母体および胎児におよぼす影響 産婦の心理と家族関係の特徴とケア	松浦		第1実
4		分娩開始兆候と分娩時期(分娩予測) 分娩進行状態の診断	松浦		第1実
5		胎児の健康度および胎児付属物の診断 正常からの逸脱の診断	松浦		第1実
6		産婦の分娩への取り組み姿勢と出産行動 分娩介助の意義・原理と基本技術 分娩進行促進の援助技術 出生直後の母子接触の意義と実際 分娩各期の産婦の基本的欲求の充足と産痛緩和法	松浦		第1実
7	分娩期の助産技術	【演習】胎児付属物の観察と計測技術	松浦		助実
8	分娩期の助産技術	【演習】内診, 浣腸, 導尿, 産痛緩和法	松浦 島林		助実
9	分娩期の助産技術	【演習】分娩室準備(必要物品の理解と準備・ 滅菌操作・ガウンテクニック)	松浦 島林		助実
10	分娩期の助産技術	【演習】肛門保護, 会陰保護, 児頭娩出, 肩 甲娩出, 体幹娩出	松浦 島林		助実
11	分娩期の助産技術	【演習】胎盤娩出, 分娩後2時間までの観察, 全身清拭など	松浦 島林		助実
12	分娩期の助産技術	【演習】演習全般にわたる総復習	松浦 島林		助実
13	異常妊娠の診断(1)	切迫流産, 切迫早産, 絨毛膜羊膜炎, 頸管無力症 前置胎盤, 妊娠高血圧症候群, 子癇, HELLP症候群	産科医師 皆本先生		N12
14	異常妊娠の診断(2)	常位胎盤早期剥離, 前期破水, 過期産, 母子感染症 血液型不適合妊娠	産科医師 皆本先生		N12
15	合併症妊娠の診断	糖尿病と妊娠性糖尿病, 心疾患合併妊娠, 子宮筋腫 甲状腺機能亢進症, 自己免疫疾患, 精神疾患	産科医師 京先生		N12
<p><b>備 考</b></p> <p>講義日程は4月7日(金)の助産診断技術学 の講義時にお知らせします。 助産師国家試験受験資格の必須項目である。 演習後は助産実習室を開放するので、学生同士でロールプレイを行い、技術演習の復習を繰り返す行う。 清潔操作や分娩準備および分娩介助に関する一連の技術チェックを行う。</p>					

## 授業計画

回	テーマ	授業内容	担当者	日程	場所
16	新生児のケア	出生直後の新生児のケア 新生児出生直後の健康評価と処置 分娩後2時間までの全身観察技術	松浦		第1実
17			松浦		第1実
18	新生児の蘇生法	新生児蘇生ガイドラインの知識と技術	学内講師		スキルアップ
19		【演習】新生児蘇生法	学内講師		スキルアップ
20	ハイリスク分娩	微弱陣痛, 遷延分娩, 分娩停止, 吸引分娩, 鉗子分娩, 多胎分娩, 早産, 死産, 骨盤位牽出分娩 クリステレル胎児圧出法	産科医師 皆本先生		N12
21	ハイリスク分娩とそのケア	微弱陣痛, 誘発分娩, 帝王切開時のケア他	松浦		第1実
22	分娩期の助産技術	分娩体位 (フリースタイル)	学内講師		第1実
23	誘発分娩と麻酔分娩	誘発分娩, 促進法, 麻酔分娩	産科医師 原先生		N12
24	産科手術	会陰切開・裂傷および頸管裂傷と縫合術 帝王切開術	産科医師 原先生		N12
25	ハイリスク新生児	早産児, 低出生体重児および正常新生児の生理, 新生児に起こりやすい病態 (循環器系障害, 呼吸器系障害 RDS, MAS, 新生児仮死, 新生児低血糖, 新生児黄疸), 分娩時外傷	新生児科 医師		N12
26			新生児科 医師		N12
27	分娩期の助産技術	分娩介助技術演習	松浦 島林		助実
28	分娩期の助産技術	分娩介助技術演習	松浦 島林		助実
29	分娩期の助産技術	分娩介助技術演習	松浦 島林		助実
30	分娩期の助産技術	分娩介助技術演習	松浦 島林		助実
31	筆記試験				第1実
備 考					

授業科目名	助産過程論	担当教員	講師 松浦 志保 他		
開講年次及び学期	3年 前期	必修・選択の別	選択		
開講形態	講義	時間数	15	単位数	1
<p>授業概要</p> <p>女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる健康課題に対して援助するために必要な助産診断および助産過程についての基礎的知識を学ぶ。特に妊婦，産婦，褥婦のマトニティーサイクルにおける助産過程の展開に必要な基礎的知識を学ぶ。</p>					
<p>G I O（一般目標）</p> <p>助産過程の思考プロセスを理解し，マトニティーサイクル各期における助産過程の展開に必要な知識を習得する。</p>					
<p>S B O（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の助産過程のプロセスを理解し，実践できる基礎的知識を習得する。</li> <li>2. 産婦の助産過程のプロセスを理解し，実践できる基礎的知識を理解できる。</li> <li>3. 褥婦の助産過程のプロセスを理解し，実践できる基礎的知識を理解できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>授業への参加状況および提出課題，技術試験，筆記試験を総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 我部山キヨ子編：助産学講座(3) 基礎助産学(3) 母子の健康科学 医学書院</li> <li>2) 我部山キヨ子編：助産学講座(4) 基礎助産学(4) 母子の心理・社会学 医学書院</li> </ol>					

## 授業計画

回		テ ー マ	授 業 内 容	担当者
1	4.10	助産過程とは	助産過程の意義とプロセス	松浦他
2	4.17	助産診断 1	妊婦の助産診断	〃
3	4.24	助産診断 2	産婦の助産診断	〃
4	5.1	助産診断 3	褥婦の助産診断	〃
5	5.8	助産過程 1	助産診断に基づく妊婦の助産過程	〃
6	5.15	助産過程 2	助産診断に基づく産婦の助産過程	〃
7	5.22	助産過程 3	助産診断に基づく褥婦の助産過程	〃
8	5.29	まとめ	助産過程のまとめ	〃

備 考



授業科目名	健 康 相 談 論	担当教員	講師 土江 梨奈 他		
開講年次及び学期	3 年 前期	必修・選択の別	選択		
開 講 形 態	講義	時間数	30	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>社会の急激な変化により、子ども達にはいじめ・不登校・薬物乱用など様々な健康の現代的課題が増加し、心と体の両面への対応が必要とされている。養護教諭は、児童生徒の心身の変化にいち早く気づくことができる立場にあり、その専門性や保健室の機能を生かした健康相談の重要性が指摘されている。このことから、新たに、2000年度より養護教諭養成カリキュラムに必須の専門科目となった。</p> <p>本授業では、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談の基礎・基本と、事例をもとに支援方法の実際について講義・演習を通して学ぶ。特に、健康に関する現代的課題の理解、心の健康問題と身体的症状の関係性の理解と支援、心と体の両面からの対応能力の育成に重点をおく。</p>					
<p>G I O (一般目標)</p> <p>養護教諭の専門性を生かした健康相談の特性について理解し、具体的相談の進め方を学ぶ。</p>					
<p>S B O (行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護教諭が行う健康相談について、概念と特質を説明できる。</li> <li>2. 子どものヘルスニーズが説明できる。</li> <li>3. 健康相談の問題理解や相談支援の目標と方法を理解できる。</li> <li>4. 健康相談の実際について説明できる。</li> <li>5. 健康相談における関係者との連携について説明できる。</li> <li>6. 諸問題の背景の分析と解決のための支援を理解できる</li> <li>7. 健康相談における養護教諭の力量について説明できる。</li> </ol>					
<p>成績評価の方法</p> <p>授業・演習への参加度、レポートにより総合的に評価する。</p>					
<p>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</p> <p>教科書： 「養護教諭の行う健康相談」、大谷尚子，森田光子編著，東山書房</p> <p>参考書： 「子どものメンタルヘルスの理解とその対応」，財団法人 日本学校保健会 「養護教諭が行う健康相談活動の進め方」，財団法人 日本学校保健会 「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」，三木とみ子他，ぎょうせい 「養護教諭の健康相談ハンドブック」，森田光子，東山書房</p>					

## 授業計画

回	日程	曜日	テーマ	授業内容	担当		
1	4月7日	金	健康相談の基本的理解	健康相談の沿革，健康相談の定義・目的・方法，学校教育と健康相談	土江		
2	4月14日	金	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談	養護教諭の職務の内容と特質，保健室の機能・施設・設備，これらを生かした健康相談	土江		
3	4月21日	金	健康相談の基礎と背景	子どものヘルスニーズの理解，健康相談の基礎	土江		
4	4月28日	金	健康相談の実際	健康相談の進め方の基本，健康相談の進め方・養護教諭の役割と連携	土江		
5	5月12日	金	諸問題のとらえ方とかわり方	諸問題の考え方と対応事例から学ぶ相談支援の原則	土江		
6	5月19日	金	事例から相談支援を学ぶ	喘息発作を繰り返す事例，自傷行為事例，統合失調症事例，摂食障害がみられる事例，過呼吸発作を起こす事例，ネットからのいじめ事例，不登校から保健室登校になった事例，震災体験の事例，性感染症の事例，薬物乱用の事例など	土江		
7			事例から相談支援を学ぶ				
8	6月16日	金	事例から相談支援を学ぶ				
9			事例から相談支援を学ぶ				
10	6月23日	金	事例から相談支援を学ぶ				
11			事例から相談支援を学ぶ				
12	6月30日	金	児童生徒の心とからだを医療現場から支援			思春期外来の実態からみる児童生徒の精神的問題と支援のありかた。医療と学校現場との連携について	教育学部 稲垣卓司教授
13							
14	7月7日	金	健康相談における記録			記録の目的，意義，相談活動における記録，事例検討のための記録	土江
15			健康相談の力量形成と研究・研修			必要とされる力量，学習方法，研究・研修，実践研究報告	土江
<p>備考</p> <p>スケジュールは変更する場合がある。</p>							

養護教諭一種免許状取得のための教職に関する科目の単位の修得方法

教職に関する科目	授業科目名	必修 単位	開講時期	開講場所	担当教員	備 考
教職の意義等に関する科目	教職概論C	2	1年前期			
教育の基礎理論に関する科目	教育原論	2	1年後期			
	人格発達心理学概説	2	1年後期			
	教育社会学概説	2	1年後期			
教育課程に関する科目	教育課程論	2	2年前期			
	道徳及び特別活動論	2	2年後期			
	視聴覚教育論	2	2年後期			
生徒指導及び 教育相談に関する科目	生徒・進路指導論	2	2年前期			
	教育相談の理論と方法	2	1年後期			
養護実習	養護基礎実習事前・事後指導	1	3年前期	出雲キャンパス	講師 土江梨奈 他	
	養護基礎実習	2	3年前期	教育学部附属学校園		
	養護展開実習事前・事後指導	1	4年前期	出雲キャンパス		
	養護展開実習	2	4年前期	出雲市内小・中学校		
教職実践演習	教職実践演習 (養護教諭)	2	4年通年	出雲キャンパス 松江キャンパス		
	合計単位数	26				

履修登録については、別途通知する。

平成29年度オフィスアワー一覧

講座	教員名	場所	時間帯
基礎看護学	内田 宏美 教授	5階	会議等で不在の場合が多いので、メールをください。 E-mail : uchi@med.shimane-u.ac.jp
	津本 優子 教授	5階	調整しますのでメールください。 E-mail : tsumotoy@med.shimane-u.ac.jp
	小林 裕太 特任教授	2階	月曜日 8:30～10:00, 火曜日 18:00以降 メール (yutakoba@med.shimane-u.ac.jp) でのコンタクトOK
	福間 美紀 准教授	5階	メールで日程調整します。 E-mail : mk8592@med.shimane-u.ac.jp
	宮本まゆみ 講師	5階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : mmiyamot@med.shimane-u.ac.jp
臨床看護学	矢田 昭子 教授	4階	適宜
	橋本 龍樹 教授	2階	日程を調整しますので、メールで連絡ください。 E-mail : ryuju@med.shimane-u.ac.jp
	福田 誠司 教授	3階	日程を調整しますので、メールで連絡ください。 E-mail : sfukuda@med.shimane-u.ac.jp
	秋鹿 都子 准教授	3階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : aika@med.shimane-u.ac.jp
	瀧尻 明子 講師	4階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : takijiri@med.shimane-u.ac.jp
	森山 美香 講師	4階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : mika1969@med.shimane-u.ac.jp
	松浦 志保 講師	3階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : shihom@med.shimane-u.ac.jp
地域・老年看護学	原 祥子 教授	5階	水曜日 12:00～13:00 適宜, メール (hara@med.shimane-u.ac.jp) でのコンタクトOK
	小笹 美子 教授	6階	日程を調整しますので、メールをください。 E-mail : yozasa@med.shimane-u.ac.jp
	加藤 真紀 准教授	5階	適宜
	榊原 文 講師	6階	適宜 E-mail : aya@med.shimane-u.ac.jp
	竹田 裕子 講師	6階	適宜 E-mail : y.takeda@med.shimane-u.ac.jp
	土江 梨奈 講師	6階	適宜 E-mail : thuchie@med.shimane-u.ac.jp